

**第2期ロジスティクス環境会議  
第1回グリーンサプライチェーン推進委員会 議事録**

I. 日 時：2006年10月6日（金） 10：00～12：00

II. 場 所：東京・港区 社団法人日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：28名

IV. 内 容：

- 1) 委員会活動内容アンケート結果について
- 2) 委員会活動内容及び運営方法について

V. 開 会

事務局より開会が宣された後、第1期ロジスティクス環境会議の活動内容について説明がなされた。

VI. 委員紹介

事務局より、山本委員長、矢野副委員長、恒吉副委員長、菅田副委員長の紹介が行われた。次に、委員各位による自己紹介が行われた後、山本委員長の司会のもと、以下の議事が進められた。

VII. 報告

1) 第2期ロジスティクス環境会議の概要について

事務局より、参考資料1-2に基づき、第2期ロジスティクス環境会議の組織体制及び現在までの経過について説明がなされた。

VIII. 議事

1) 委員会活動内容アンケート結果について

事務局より、資料2に基づき、グリーンサプライチェーン推進委員会メンバーを対象に実施した「委員会活動内容アンケート」の結果報告がなされ、以下のような意見交換がなされた。

**【主な意見】**

委員長：当委員会メンバー向けのアンケート結果とJILS会員アンケートの結果の差異について教えていただきたい。

事務局：①設問2-2、4-2の「今度取り組みたいと考えている施策」の数が、当委員会メンバーの方が多く、②設問2-5、4-5「環境負荷低減活動の取組状況」では、JILS会員は自社のみの方が多いが、当委員会メンバーは他社と連携した活動を行っている、以上の2点が大きな差異になる。したがって、当委員会メンバーの方が、環境対応に関する意識が高いということが言えると考えます。

委員長：設問2-1、4-1「貴社で実施中の施策の優先順位」において、当委員会メンバーは「輸送のCO2削減」との回答が多かった一方で、JILS会員では「3Rの推進」という回答が多かった理由について教えていただきたい。

事務局：あくまでも想像の範囲であるが、当委員会メンバーは物流部門における環境対応を実際にされている方が多いが、一方でJILS会員連絡窓口は、総務や経理部門の方がなっている企業もあり、その方々からすると、輸送分野よりも事務用品等の3Rの取組に関心があることからこのような結果になったのではと考えられる。その次に想定される理由としては、回答数が大きく異なることが考えられる。

委員長：アンケート結果の公表の有無について教えていただきたい。

事務局：環境会議については、原則としてホームページで資料の公開を行っているので、本結果についても公表することとなる。一方、J I L S 会員アンケートについては、担当部署が正式な集計が終わり次第、結果の概要版をホームページ等で公表する予定である。

委員：省エネ法の報告義務対象有無については、委員会メンバーに留まらず、環境会議メンバー全体に広く調査してはどうかと考える。

事務局：ご指摘を踏まえて検討する。

#### 【決定事項】

- ・委員会活動内容アンケート結果を基に活動内容を検討することとする。

#### 2) 委員会活動内容及び運営方法について

事務局より、資料3-1、3-2、3-3に基づき、委員会活動内容（案）及び運営方法（案）について説明が行われ、以下のような意見交換がなされた。

#### 【主な意見】

(活動内容について)

委員：資料3-2の中に“調査”という語句が使われていたが、具体的にどのような調査を想定しているか教えていただきたい。

事務局：小売業への調査というところでは、まずは事務局で数社程度簡単なヒアリングができればと考えている。一方の「取引条件改善方策の検討」というところでは、委員会メンバーや環境会議メンバーへのアンケートを適宜実施したいと考えている。

委員長：委員会の場で委員会メンバーから話をさせていただくことも重要な調査である。また、委員会メンバーの取引先企業をご紹介いただくことにより、ヒアリング調査を実施することも考えてられるので、ぜひご協力をお願いしたい。

委員：グリーン物流研究会とグリーンサプライチェーン推進委員会の違いについて教えていただきたい。

事務局：研究会については、情報収集が主目的であり、具体的な成果物を出すことは行わない。一方、委員会については最終的に提言等の成果物を出すこととなる。ただし、例えば委員会の中間成果物を研究会で報告したり、研究会メンバーにもアンケートの協力依頼したりといったことは考えられる。

委員：資料3-4で委員会開催数としては10回を予定しているが、本会議開催前には報告内容の取りまとめ等を行わなければならないが、実質的には7回しか活動できないと考えた方がよい。したがって、活動範囲をあまり広げすぎず、小さい範囲でもいいのでまとめた成果が出せる方がよいと考える。また、成果物作成も重要だが、委員会の場での人脈形成も意義深いことであり、それらも含めた活動を行えればと考えている。

委員：資料3-2で公正取引委員会からの説明等の記載があったが、それを実施する意義について教えていただきたい。

事務局：物流に係る取引条件に留まらず、視野を広げるという意味で提案した。ただし、その部分を切り口に調査を行うことについては、現在のところ事務局として想定していない。

委員：第1期省資源ロジスティクス推進委員会の議論でもあったとおり、一言で小売業といっても、規模によってコントロールできる範囲、能力が異なっており、大手の小売よりも中小の小売で問題になっていると考える。したがって、例えば、規模ごとに問題となっている事項を情報収集した後、次のステップを考えるべきではないかと考える。

事務局：ご指摘のとおり、第1期省資源ロジスティクス推進委員会では一次卸の調査を行い、一次卸の納入先であるいわゆるパパママストアの問題が大きいと考えている。したがって、資料3-2にあるとおり、「地区内物流の共同化」といったところが、解決方策の1つではないかと考えている。また、公取に関しては、物流特殊指定などもあり、そのあたりも含め

て、情報収集してみてもどうかと考える。

(運営方法について)

委員長：資料2の設問1-2では、関心のあるテーマに大きな偏りがあったが、参考までにどちらに参加したいか挙手をお願いしたい。

(→「取引条件」10名、「源流管理」10名ほどとなる。)

委員長：それでは、当初の予定どおり、委員会開催時に分科会に分かれて活動を行う形としたい。

事務局：本日の欠席者もいるので、どちらの分科会に参加されるか、別途メールで確認を取りたい。

委員：両方の分科会に参加することはできないのか教えていただきたい。

委員長：基本的には同時間帯で実施するため、片方だけになるが、委員会終了時に両分科会からご報告いただく形をとるため、情報共有はできるようにしたい。

(勉強会について)

委員：第1期リバーズロジスティクス調査委員会では、委員会冒頭に、メンバーや外部講師を招いての勉強会等を実施していた。当委員会でもそのようなことをやるのも一案ではないかと考える。

委員：勉強会については、委員会メンバーでの持ち回りで行ってはどうかと考える。

委員長：発表時間が長いと発表者の負担となるので、1発表30分程度でよいと考える。

事務局：勉強会の実施の有無についても希望を取りたい。また、実施する場合は、事務局からメンバーに依頼をするので、ぜひご協力いただきたい。

#### 【決定事項】

- ・ 運営方法としては、当初案どおり、委員会開催時に「取引条件」「源流管理」分科会に分かれて活動を行う。
- ・ 「取引条件」「源流管理」どちらの分科会に参加するかについては、別途メールで希望を聞くこととする。
- ・ 勉強会実施の有無についても、メールで希望を聞くこととする。

#### 3) その他

第2回委員会開催日時については、2006年11月10日(金)15時~17時とする。なお勉強会の開催が確定した場合は、別途時間の変更を行う(開催日時は変更しないこととする)。

#### VIII. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、山本委員長は閉会を宣した。

以上